

(技術名) ヨナラ水道ナミハタ産卵保護区のエリア拡大による親魚保護効果							
(要約) 八重山海域で実施されているナミハタを対象とした保護区のうち、平成 27 年度から新しく指定されたエリアには、ナミハタのほか、カンモンハタの産卵集群も確認され、拡大エリアは、保護区の効果を高めることに有効であると判断できた。							
水産海洋技術センター石垣支所					連絡先	0980-88-2255	
部会名	水産業	専門	資源管理	対象	ナミハタ	分類	普及
普及対象地域	八重山海域						

[背景・ねらい]

八重山漁協電灯潜り研究会では、重要な漁獲対象種であるナミハタの資源回復のため、主要な産卵場であるヨナラ水道を保護区に設定し、自主的な漁獲規制に取り組んでいる。平成 27 年度からは、漁業者から既存の保護区の北側に新規エリア（新保護区）を延長する改良策が提案され、試験的に実施されてきた。しかしながら、新規エリアを設ける保護区の拡大には反対する漁業者も存在するため、この効果を客観的に評価するために潜水調査を実施した。

[成果の内容・特徴]

1. 試験的に新しく保護区に指定されたエリア（図 1a,b, 実線で囲われた範囲）で、平成 27 年、28 年の産卵期間中に潜水観察調査を実施した。
2. 平成 27 年は、新規エリア西側を中心に調査したが、産卵集群を発見できなかった。平成 28 年の調査では、新暦 4 月と 5 月の産卵予想日前後の期間に、既存保護区の他に新規エリア東側の水深約 10 m の海域にナミハタ（図 1a）およびカンモンハタ（図 1b）が高密度に分布しているのを確認した。
3. カンモンハタの新規エリアでの分布密度は、既存保護区（図 1 a,b, 破線で囲われた範囲）の 11~40 倍に達することが確認された。調査期間中に観察された雄（図 2）や腹部の膨張した多数の雌は、その後、分布密度が大幅に低下したため、新規エリア周辺が産卵場であると考えられた。
4. 平成 28 年 5 月の調査でも高密度にナミハタが分布している様子を観察したが（図 3）、これらの集群は禁漁期間の最終日（6 月 3 日）に実施した調査では観察されなかったため、産卵を終え、集群を解散したと考えられる。
5. 新規エリアには、既存保護区では確認されていないタテシマフエフキ、イソフエフキ、ニセクロホシフエダイ、マトフエフキが高密度に分布し、ハタ類を含め多魚種の産卵群を保護できる可能性が示唆された。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は、漁業者との管理策の調整において円滑な合意形成に活用できると考えられ、新規エリアを継続的に既存保護区に組み入れることは、資源管理効果の拡充策として普及できる。

[具体的データ]

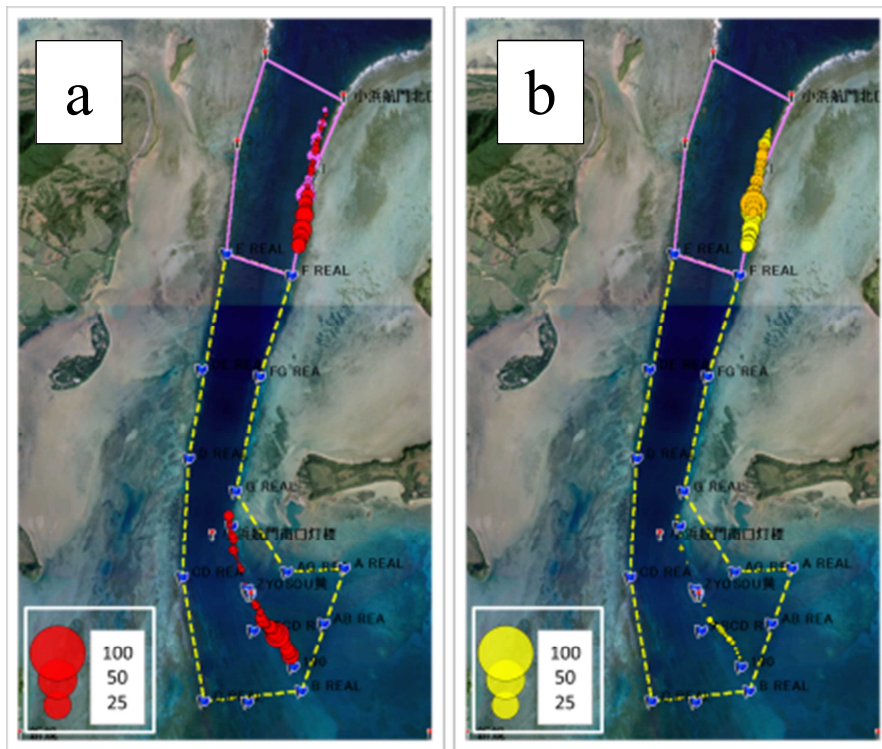


図 1. 平成 27 年以降に指定された新規エリア（桃色の実線で囲まれた範囲）と、既存の保護区（黄色の破線で囲まれた範囲）における、平成 28 年 4 月 30 日の、a: ナミハタの親魚密度、b: カンモンハタの親魚密度（個体/100 m²）。



図 2. 雄と思われるカンモンハタ。
(平成 28 年 4 月 19 日撮影)



図 3. 抱卵したナミハタ。
(平成 28 年 5 月 29 日撮影)

[その他]

課 題 ID : 2012 水 002

研究課題名 : 沖縄沿岸域の総合的な利活用推進事業

予算区分 : 沖縄振興特別推進交付金

研究期間 : 平成 24 年度～平成 28 年度

研究担当者 : 秋田雄一・太田 格

発表論文等 : 沖縄県水産海洋技術センター事業報告書、平成 28 年度（予定）